

研修医が学会発表で優秀賞を受賞しました!

- 受賞者** 2年次研修医 河野 真菜
- 学会名** 第134回日本循環器学会九州地方会
- 賞名** 優秀賞
- 演題** 心内膜炎を契機に診断された感染性大動脈瘤に対し、ステントグラフト内挿術が奏功した一例
- 指導診療科** 循環器内科
- 受賞コメント**

この度、日本循環器学会九州地方会で優秀賞をいただくことができました。指導医の森林先生をはじめ、循環器内科の先生方にはお忙しい中ご指導していただき、また、このような機会を設けてくださり心より感謝申し上げます。これまでの研修や学会発表の経験があったからこそ、無事に発表を終えることができたと思います。恵まれた環境で研修させていただいていることを改めて実感しました。今後もこのような機会をいただけるように、日々の研修に励んでいこうと思います。



授賞式の様子

指導医の森林先生(卒後臨床研修センター教員/内科合同コースメンター)もメンター賞を受賞されました!!

受賞コメント

この度の優秀賞の受賞、自分のことのように嬉しく思います。主治医であった原田耕士朗先生(現在県立宮崎病院に勤務)とともに、担当医として患者と向かい合い、病態をきちんと理解し、適切な検査と評価を繰り返しながら最適な治療に結び付けるといった一つ一つのプロセスを丁寧にいった延長線上に、今回の受賞があったと思います。事前のスライド作りや発表の準備にも余念がなかったので、本番もとても落ち着いていました。



河野先生と指導医の森林先生

研修医の声

医科2年次研修医 和田 明香里

私は現在(令和5年7月)宮崎市立田野病院で地域医療研修をさせていただいています。外来診療ではcommon diseaseの対応を学ぶことができ、病棟診療や訪問診療ではこれまでの研修であまり触れる機会がなかった緩和ケアや終末期医療を勉強させていただいています。また田野病院は東京慈恵会医科大学の研修も受け入れており、今月は2年次2人でローテーションしています。



和田先生(写真左)と東京慈恵会医科大学研修医の坂口先生

研修先を考えるにあたって各病院の良さや強みがあると思います。私は大学病院と市中病院の双方向性で自分の希望に応じて病院を選択できる自由度の高い研修プログラムである点に魅力を感じて大学病院での研修を選びました。実際にこれまで救急科、精神科、外科、総合診療科を市中病院で研修させていただきました。大学内外を問わず多くの先生方から学べる環境にあること、また経験できる症例の多様性を実感しておりこの研修を選んで良かったと思っています。

研修医生活もあつという間に1年以上が過ぎ今後の専攻を決める時期が少しずつ近づいてきました。自分が将来何をしたいのかをよく考えながら、残りの研修も日々励んでいきたいです。

医科1年次研修医 山口 三千華

研修医1年の山口三千華です。私は「産婦人科・周産期重点プログラム」に所属しており、4月から6月までの3ヶ月間を産婦人科にて研修させて頂きました。

このプログラムでは研修医になりたての4月から妊婦さんの胎児エコーや産まれてきた赤ちゃんの蘇生や診察といった手技をたくさんやらせて頂けるし、手術では術者のひとりとしてほぼ毎回のように術野に入らせて頂けるので何度も手術を間近で見ると手技の流れが自然と分かっていくようになるなど、毎日多くのことを実際に手を動かしながら学ぶことができとても充実しています。

5月には日本産婦人科学会やハンズオンセミナーにも参加させて頂き大変勉強になったとともに、全国の産婦人科の先生方や学生とたくさん交流することが出来たのも嬉しかったです!

産婦人科の先生方は皆さんとても研修医や学生想いで、質問にも快く丁寧に答えてくださるし、初めてやることも私が出来るようになるまで熱心にご指導くださるので、安心して楽しく研修できます。

これからも産婦人科医として地元小林市の地域医療に貢献するという将来の夢を叶えるべく、日々精進いたします!



指導医(プログラム責任者)の山田先生と山口先生(写真右)

そつごのそつご 第11回

～若手外科医の先輩たちにあれこれ聞いてみました編～



市来 伸彦先生
医学部卒業:2014年卒
臨床研修修了:2016年研修修了
専門分野:消化器外科



千代反田 顕先生
医学部卒業:2016年卒
臨床研修修了:2018年研修修了
専門分野:消化器外科



明利 里彩先生
医学部卒業:2018年卒
臨床研修修了:2020年研修修了
専門分野:心臓血管外科



坂元 紀彦先生
医学部卒業:2021年卒
臨床研修修了:2023年研修修了
専門分野:未定



樋口 和宏先生
医学部卒業:2014年卒
臨床研修修了:2016年研修修了
専門分野:消化器外科
※卒後センタースタッフ



谷口 智明先生
医学部卒業:2015年卒
臨床研修修了:2017年研修修了
専門分野:心臓血管外科
※卒後センタースタッフ

宮崎大学医学部附属病院外科学講座は、2016年度より心臓血管外科、呼吸器・乳腺外科、肝胆膵外科、消化器内分秘・小児外科、形成外科が1つの講座に統合されました。

まだ外科での初期研修を経験していない先生方や、宮崎大学で学生実習を経験した先生方の中にも、短い期間で外科の医師像やキャリアに対してははっきりとイメージを持てなかった方もいるかと思います。今回は、当院で初期臨床研修を修了し、宮崎大学の外科学講座へ進んだ卒業後10年目までの先輩医師達にインタビューしてみました。

谷口:先生方が外科医になりたいと思ったきっかけは何ですか？

明利:学生の頃から循環器疾患についての勉強が面白く、特に心臓血管外科に興味がありました。初期研修では2年間で計4か月外科を研修し、やはり心臓血管外科医として働きたいと思い、外科に入局を決めました。

市来:私は手を動かせるところに入ろうと思い、研修中にもよくしてもらったので、最初はなんとなく外科を選択しました。

樋口:そうですね。僕も学生の頃から外科医になりたいと思っていました。宮崎県出身ではありませんでしたが、本学の学生だった頃に臨床実習で外科を回った際に、その頃の教授に強く憧れを抱き、宮崎大学の外科に入局しようと思いました。やっぱり自分の「手」で病気を治すという点に魅力を感じますよね！

谷口:僕と樋口先生以外の皆さんは宮崎県出身ですが県外の大学を卒業されていますよね？先生方が宮崎大学医学部附属病院での初期研修を選択した理由を教えてください。

千代反田:地元に戻るつもりではいましたが、他大学出身だったので、縦や横のつながりが出来たらいいなと思って宮崎大学を選択しました。

市来:私も宮崎での知り合いを増やしたいと思い、よりたくさん病院を回れる宮崎大学の研修プログラムを選択しました。

坂元:やっぱり附属病院以外の研修先を選択できる期間がたくさんあるのは魅力的でした。



初期研修中に連れて行ってもらった医局旅行での1コマ

谷口:様々なつながりができるという点は僕もそう思います。初期研修中に1か月だけ研修させて頂いた病院の先生もいまだに覚えて下さっていて、患者さんの紹介で連絡した際に「元気か？」と声をかけて下さったりするのが嬉しいです。研修中に印象に残っている事はありますか？

明利:研修を開始してすぐにお看取りがあり、教科書通りではない実臨床の難しさを実感したのが印象に残っています。

坂元:鼠経ヘルニアや胆嚢摘出

術など、研修医でも執刀させてもらえる機会があり、とても印象に残っています。研修室で同期と色々な話をしたのもいい思い出として残っています。

千代反田:僕のように他大学から来た研修医も数人いましたが、宮崎大学出身の方々が誘ってくれてBBQをしてくれたことがとても嬉しかったです！関連病院での研修期間も、多くの先生方が研修医を見守って下さっている雰囲気を感じました。

市来:外科での初期研修中に特に印象に残っているのが、緊急手術に入らせてもらった事です。その時は自分も外科の一員として先輩医師達と同じ立ち位置で、患者さんの診療にあたっている気がしました。飲み会に誘って頂いたのも楽しい思い出として残っています。

樋口:みなさん充実した2年間を過ごしたんですね。

樋口:外科といえは手術ですが、手術はどれくらいのペースでしていますか？

千代反田:手術日はどの科でも概ね週3日で、残りの2日は外来や病棟業務、大学院の研究などを行っているかと思います。

明利:心臓血管外科は病態によっては準緊急という形で手術日程を早めたりすることがあるので、何だかんだ週4日くらいは手術をしている気がします。

谷口:もちろん緊急手術もあるので、飲み会や家族との時間の最中に呼び出されることもあります。家族、特に奥さんと旦那さんの理解があつての職業だとは思いますが、緊急手術や患者さんの急変で呼ばれた時の家族の反応は、普段の自分の家庭内での行動がある程度反映されている気がします(笑)。早く帰れるときは早く帰って子供とお風呂に入ったり、学校行事は可能な限り参加したり(当講座は家族イベントで休みを取りやすい雰囲気だと思っています!)、これらのいわゆる“ロビー活動”が大切だと痛感しています。

樋口:ちなみに僕は大学院生として一旦臨床を離れて研究室に通っています。研究の日々です。。



日々のトレーニングは必須！

外科系領域の専門医制度の仕組み



外科専門医を取得した上でそれぞれのサブスペシャリティ領域の専門医取得を目指す。

※それぞれのサブスペシャリティ領域の専門医取得は、外科専門医を取得していることが条件となっている。

谷口: 明利先生は今年外科専門医試験を受験予定ですね。当講座の外科領域専門研修プログラムの特徴はありますか？

明利: 最初の3年間で全ての外科領域をローテートするので、外科医になりたいけどサブスペシャリティまでは決めていない、という人にとっては、実際に働いて自分のライフスタイルを築きながら、将来を見据えてじっくりと考える時間があるのは良いと思います。

坂元: 卒後3年目から執刀もさせてもらえるのも嬉しいですね。

市来: 卒後5年目には外科専門医を受験するために必要な条件がクリアできるように、関連病院を含めた人事をしてくれるので、その点もありがたいです。

千代反田: 確かに、同じ外科の講座の中で専門医取得に必要な全領域の手術経験を取得できるのはいいと思います。

谷口: そうですね。外科の中でも単科の医局や病院(例: 消化器外科しかない)に所属した場合、他の領域の手術経験を取得するために、医局や病院を越えて修練に行くこともあるみたいです。そのようなストレスがないのは、若手医師の頃にはありがたいシステムだと思います。外科専門医を取得するためには最低120例の手術執刀数と、350例の手術経験数(助手を含む)が必要ですが、宮崎大学の外科学講座のプログラムではこれらの症例数は、所定の期間内できちりこなすことが出来ます！

樋口: ところで皆さん、実際外科医になってみてどうでした？

千代反田: 意外にもかなり早い段階から執刀医として手術を行っていくことが嬉しかったです。手術の準備や病棟業務で勤務時間がオーバーすることもあります。充実感があります！外勤(大学病院以外での勤務)や当直に関しては、ある程度個人の希望に沿って組んでもらえるのでありがたいです。

明利: 手術前後で明らかに検査所見が改善し、患者さんが退院していく姿を見られるのは嬉しいです。長時間の手術は疲れますが、達成感の方が大きいです。

谷口: 確かに、術後のCTやエコーを見るあの瞬間はいつもドキドキ



消化器外科、呼吸器外科ではロボット手術(da Vinci)も行っています！

宮崎大学外科学講座の外科領域修練の流れ

卒後3年目	卒後4年目	卒後5年目	卒後6年目	卒後7年目～
大学病院	関連病院	大学病院	大学病院 又は関連病院	大学病院 又は関連病院
4か月毎に各領域をローテーション(1年間で3領域)	主に消化器外科領域の手術経験	ローテーション(最初の4か月)サブスペシャリティ領域の修練開始	サブスペシャリティ領域の修練 外科専門医試験受験 外科専門医取得	サブスペシャリティ領域の修練

外科専門医試験受験の要件

研修開始・修了

日本外科学会:「研修実績管理システム」への研修記録の登録
(4月下旬より可)

【修了要件】

- 最低3年間の研修
- 診療経験(最低手術経験数350例)
- 学術活動(合計20単位)
- 日本外科学会定期学術集会への参加
- 日本専門医機構認定の共通講習受講



以上を満たして、プログラム統括責任者から専門研修の「修了」の判定を得た専攻医は外科専門医試験を受験できません

日本外科学会HPより

ますね！

市来: やはり現場は常に緊張感がありますが、やりがいのある仕事につけて良かったと思います。

谷口: 以前のように術後にベッドサイドに張り付いて患者さんと夜を明かしたり、といったことは減ってきている印象です(もちろんそういう事もあります)。術後は状態が落ち着いていれば、ICUの専属医師に申し送りを行って、ある程度は術後管理を任せる事もあります。日中の手術に全力を注ぐためにもある程度の休養は必要だと思います。

坂元: 確かに、手術以外の日には早く帰ることもあって、勤務時間にメリハリがあるのは意外でした。

樋口: 外科の中でもほとんどがチーム制を活かした病棟管理を行っています。みんな家族と過ごす時間も取れている(もちろんある程度努力して時間を作って)と思います。

樋口: 最後に初期研修医の先生方にメッセージはありますか？

明利: 外科はやっぱり楽しいです！一緒に働く仲間が増えたらもっと楽しいと思うので、初期研修の間に少しでも興味を持って頂けると嬉しいです。

千代反田: 一緒に手術をしていると、特別な仲間意識を感じられるのも外科の醍醐味だと思います。

坂元: 手を動かす手技が好きだったり、何となくでも外科に興味があればぜひ選択肢に入れてもらえると嬉しいです。

市来: 確かに、先輩外科医のほとんどが、“手を動かしたい”とか、けっこうざっくりとした動機で外科医になっていると思います。それでも意外と何とかなるもんです(笑)。飲み会も少しずつできるようになってきているので、若手の先輩達が連れて行ってくれると思います。

樋口: 初期研修の間は頻りに病院や病棟が変わるため、ストレスが溜まりやすい環境でもあるかと思いますが。仲間内で吐き出すのも大事ですし、卒後センター教員に話してもらえれば力になりますので、みんなの力を時折借りながら、研修を乗り切ってもらえればと思います。外科は年々若手医師が増え、良い雰囲気の仕事ができています。宮崎大学附属病院外科での研修もお待ちしています！

宮崎大学医学部生対象マッチング登録説明会 &臨床研修病院合同説明会が開催されました!

令和5年6月9日(金)に宮崎大学医学部にて宮崎大学医学部生を対象とした「マッチング登録説明会&臨床研修病院合同説明会」が開催されました。宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会と宮崎大学医学部の合同主催で、本学医学部6年生93名と、1年生から5年生までの地域枠学生34名の計127名が参加しました。

初めに宮崎県医師会金丸常任理事からの挨拶の後、宮崎大学医学部医療人育成推進センターの小松教授からマッチング日程と登録方法の説明が行われました。

次に県内の8基幹型臨床研修病院(県立宮崎、県立日南、県立延岡、古賀総合、宮崎生協、藤元総合、宮崎市郡医師会、宮崎大学)からそれぞれの臨床研修プログラムの説明があり、指導医の先生や研修医が各施設の研修プログラムを熱心に説明されていました。

今年度は、開催後に各研修病院の個別説明の時間が設けられ、参加した学生が気になる研修病院のブースに赴き、指導医の先生や研修医へ質問や相談を行っていました。



令和5年度宮崎県専門研修プログラム 合同説明会が開催されました!

去る7月8日(土)にシーガイア・コンベンションセンターにて「令和5年度宮崎県専門研修プログラム合同説明会」が開催されました。宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会、宮崎県地域医療支援機構、宮崎大学医学部、宮崎県医師会の合同主催です。

この会には県内の基幹型研修病院の研修医と、宮崎大学医学部地域枠の5年生、6年生が参加しました。そして、それぞれの専門プログラムPRを行う各基幹病院、各診療科の先生方も多数出席されました。

まずは本説明会の主旨と目的について宮崎県医師会常任理事の金丸吉昌先生よりご説明があり、続いて専門医プログラムの概要説明が宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会副会長の小松弘幸先生よりありました。そして、各専門医プログラムの概要説明をそれぞれの担当者の方々が順番に行いました。宮崎大学(19領域)、県立宮崎病院(内科・小児科・精神科・外科・整形外科・麻酔科・救急科・総合診療科)、県立延岡病院(内科・産婦人科)、古賀総合病院(内科)、宮崎生協病院(総合診療科)、野崎東病院(整形外科)、宮崎市郡医師会病院(内科)、吉田病院(精神科)の8施設にそれぞれのプログラムがあり、25名の担当者が壇上に立ってプレゼンテーションを行いました(一部のプログラムはプレゼンテーションやブースの出展なし)。2分間という短い時間の中でしたが、動画やスライドを用いながら熱い思いを研修医、医学生に向けて語っていただきました。



各専門プログラムブースでの個別相談の様子

その後、同会場にて各専門プログラムブースでの個別相談に移りました。ブースに待ち構える先生方も前半のプレゼンテーションで伝え切れなかった内容を伝えるべく、資料、身振り手振り、そして笑顔を交えて情報提供を行っていました。なお、例年のごとく「地域医療支援機構」のブースも出展しており、参加者の問い合わせにこたえるべく情報提供を行っていました。

参加された研修医および指導医の方々、学生さん、そして準備から当日運営まで本企画を支えて下さった、宮崎県(医療政策課)、宮崎県医師会、宮崎大学医学部事務の皆様にご心より感謝申し上げます。本企画が未来の専門医育成につながっていくことを祈念いたします。



専門医プログラムの概要説明の様子

行事案内(7月~12月)

7月	31日(月)	医師臨床研修マッチング面接
8月	22日(火)	医師臨床研修マッチング面接
	3日(木)、31日(木)	歯科医師臨床研修マッチング面接
10月	24日(火)	歯科医師臨床研修マッチング決定
	26日(木)	医師臨床研修マッチング決定
11月	25日(土)	研修ローテート選択説明会・修了説明会
	未定	第1回医科研修管理委員会、第1回歯科研修管理委員会
12月	16日(土)・17日(日)	指導医のための教育ワークショップ【宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会】

「なんでも掲示板」 原稿募集!

宮崎都市伝説、失敗リカバリー談、研修あるある話など、研修に係る話ならなんでも原稿募集中です!

連絡先 宮崎大学医学部 医療人育成課 卒後臨床研修係
内線2385/2386

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL0985-85-1864 FAX0985-85-0693
E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp

